

○14番 小畑仁君

泉中学校3年、小畑仁です。私は、行橋市の広報活動について質問します。

私は、もっと地域のことを知りたい、もっと地元を身近に感じたいと日々思っています。私たち子どもにとって、地域の取り組みや魅力について知る手段は、主に広報紙やホームページなどがあります。しかし、それらを読む機会はあまり多くなく、難しいと感じることもあります。

そこで、市役所や地域の方が直接学校に来てくださって、地元の歴史や文化、活動の魅力などを直接お話して下さる機会をつくっていただくことは可能でしょうか。

例えば、地元のお祭りの由来を教えてもらったり、地域で活躍する方のお話を聞いたりすることで、地元のことをもっと好きになれると思います。また広報紙の読み方やホームページの活用方法などについても、ぜひもっと知りたいと思っています。

このような機会があることで、私たち子どもも地域の一員としての意識が高まり、将来のまちづくりに参加する意欲にもつながると思いますが、執行部はどのようにお考えでしょうか。

○前半議長 渕上愛衣君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

小畑議員のご質問にお答えさせていただきます。非常にありがたいご意見だというふうに思います。いかにして皆さん方の中に、この行橋市を担っている、まちを担う自負心・誇り、これをシビックプライドと言いますけれども、こういったものを若い世代の皆さん方と一緒に、そのシビックプライドをつくりあげていくというのは、我々にとっても非常に大きなテーマだと思っておりますので、大変前向きなご質問をいただいて感謝しております。

実際に学校は、カリキュラムといったものがありまして、授業時間といったものが決まっております。そして年間を通じて、こういった授業をするのかという内容も決められておりますので、まずは総合学習などの時間の中で、いま議員からいただいたようなことができるのかどうかといったところを、教育委員会そして学校現場の先生方とも議論をする必要があるのかなと思っております。

実際に郷土史科やコミュニケーション科という授業も行っているわけですが、さらに地域の方々が出向いて、あるいは我々の広報担当なんかが出向いてですね、広報紙のことなどについて出前授業をさせていただく、そういったことが可能かどうか、そこについては、今後も協議をさせていただきたいと思っています。

同時に、例えば私、市長であれば、まちかどトークといった仕組みがあります。それ

を使っただけであれば、こういったテーマでぜひともトークがしたいと言っただけであれば私が行きますし、必要に応じて担当の職員も連れて行くことも可能でございます。ですので、ぜひそのまちかどトークもご活用いただければと思います。

また、夏休みなども例えばお金にまつわるワークショップや、いろいろな図書館のイベントや市民大学講座といったものがございます。こういったことを行っておりますので、ぜひともそういったものもご活用いただければと思っております。以上です。

○前半議長 渕上愛衣君

小畑仁議員。

○14番 小畑仁君

ご答弁、ありがとうございます。

次に2点目について、市長に質問します。私は、行橋市で育つ人材が行橋市の未来に貢献したり、勤労意識を高めるためのきっかけがあればいいなと思っています。

その中で、夏に行われている、こすもっぺで小学生や中学生が屋台を出すことができれば、地域の人たちともかかわれて、まちのことをもっと身近に感じられるのではないかと思います。お祭りの中で、子どもたちが出店を体験することについて、市長はどう思われますか。

○前半議長 渕上愛衣君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

お答えいたします。すごく面白い試みだと思います。やれるかやれないかと言ったら、やれると思うんですけども、これもやっぱりいろいろなハードルがあると思います。まず、やっぱり、実際にそこで商売をしていただく、お金をそこで稼いでいただく、稼げない可能性もありますけれども、そういった実践の機会をつくることができれば、とってもリアルな勉強の場になると思いますので、いいと思うんです。

ただ、ここについても、やっぱりいろんな乗り越えていかなければいけない課題があると思います。お金を扱うということで、例えば金銭的なトラブルが起こった場合、どうするかとか、行政はどうしても、もし問題が起こったときにどうするかという、責任問題といったものも、やはりしっかりと我々も考えていかなければいけませんので、まずいただいたご意見を踏まえてですね、こすもっぺだけではなくて、様々な機会を創出することができないかということを検討させていただきたいと思います。

ちなみに昨年、行橋市制70年を迎えました。その中でも、高校生や大学生が特に多かったですけども、いろんなシーンで実はボランティアとして参加いただきました。これもですね、参加していただくことによって、まちのことについて、いろいろ考える

きっかけになったというようなご意見をいただいております。

それから今ですね、実は今日もありまして、明日もあるのですが、今井の祇園様って分かりますかね。そちらのお祭り、今井祇園の行事がずっとございます。昨日の夜は提灯が付いた大きな山車を、夜、引っ張るといったものがあつたんです。私も行って来まして、山車を実際に引っ張りました。水をいっぱい掛けられてですね。そういった所に行くと、ほとんどのおそらく市民の方が、いまだにああいった大きな山車をひいているお祭りが地域にあるんだというのを、たぶん御存知ないんです。700年以上も続く祭りなんですね。

我々もそういったお祭りを市報なんか実際に載せたりインターネット上にも情報を掲載したりしているのですが、もっともっと子ども議員の皆様方にも伝わるようなかたちで、もっともっと情報発信しなければいけないなと思いました。

ぜひともそういう地域の今あるお祭り、これは商売・ビジネスといったかたちではありませんが、地域のお祭りに参加するというだけで、かなりいろいろ得るものがあると思いますので、我々もそういった情報発信に努めてまいりたいと思います。以上です。

○前半議長 渕上愛衣君

小畑仁議員。

○14番 小畑仁君

ご答弁、ありがとうございます。

最後に行橋市の広報活動について、一つ提案があります。私は、中学生として日々様々な情報に触れる中で、ニュースや地域の出来事などを知る手段として、T i k T o kやI n s t a g r a mなどのSNSのショート動画をよく利用しています。友達と話していても、動画で知った、SNSで見た、という話題が多く、文字だけの情報よりも、短く、分かりやすくまとめられた動画のほうが印象に残りやすいと感じています。

現在、市ではI n s t a g r a mのアカウントを運用していることは知っていますが、T i k T o kにはまだ取り組めていないと聞きました。多くの若い世代が利用しているT i k T o kを活用することで、イベントのお知らせ、地元の魅力の発信など、もっと多くの人に市の情報が届くと思います。市としてT i k T o kの活用をぜひ検討していただけないでしょうか。

○前半議長 渕上愛衣君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

お答えいたします。I n s t a g r a mも行政としては比較的、行橋市は評価をいただいているんですけども、やはり子ども議員の皆様方の年代には、まだまだ浸透しき

れていないんだなということが改めて分かりました。

T i k T o k もぜひとも活用していきたいと思っております。いろいろな課題もあると思っております。このSNSを使うに当たっては、正確な情報をしっかりと流すということ、それからT i k T o k は、年齢の制限なんかもありますかね、その辺についても配慮していかないといけないと思っております。アカウントの問題だったり、それはこちらサイドの問題ですけれども、いろいろとクリアしていかなければいけないところはあると思いますが、より多くの若い世代の皆様方にも情報を発信していくという意味では、このT i k T o k も有効な道具・ツールであると考えております。

我々もいま内部でもこのT i k T o k に関しても協議検討して、実は準備も進めているところであります。ですので、議員のご要望にどこまでお答えできるかというのは、まだまだこれからでございますけれども、乞うご期待ということでお待ちいただければと思います。以上です。

○前半議長 渕上愛衣君

小畑仁議員。

○14番 小畑仁君

御答弁、ありがとうございます。

以上で質問を終わります。前向きな回答を、ありがとうございました。